

竹と ともに 生きる



私は京都府の天王山のふもとにある大山崎町に住んでいます。お正月用の竹系田エの販売をしている森林ボランティアさんに取材をしました。

Q: お正月用の竹系田エの販売を始めたきっかけは何ですか。

A: 天王山の手入れをする時に余った竹を使うためです。竹は強く、他の木よりも速くのびてしまうので、たくさん切られた竹もったいなす事にし、8年前から



手入れをする時切ります。その時は捨てるのはいいので販売をしました。約7〜8年前から販売をしています。

竹は山全体の40%もあるそうです。ほっておくと竹だらけになり、近くにある木は日かげになって枯れてしまいます。竹を切る時、傘をさして通れるくらいの間隔で切っているそうです。ボランティアさんはベンチ作りの手伝い、竹の子堀り、竹を使ったでんでん太鼓や流しそうめんなどさまざまな事をして、大山崎町民と交流しています。



私はこのボランティアさんの活動は未来を守る大切な仕事だと感じました。豊臣秀吉と明智光秀が戦った事で有名な天王山。いつまでも生き生きした



山でいるために私達が守ろうと思いました。お年寄りが多いこの町で、私達は期待されています!!

未来へつづく 大山崎エコ新聞 発行者: 大山崎学校 5年 丸山二葉

エコ活動 みんなの力で 未来を守る

えー??ゾウのウンチ から葉書き!?

ゾウのウンチと牛乳パックを使って京都市立岡崎動物園で葉書きを作りました。牛乳パックは全体の1/3も使います。ゾウはわらなどの繊維が大好きで、草をモリモリ食べるので、しょうぶな葉書きを作ることができます。(上の茶色い葉書きが実物です) ウンチは普通、捨てる物ですが、この葉書きを作る事により、リサイクルができます。最初、ウンチは抵抗がありましたが、できた葉書きは臭くありませんでした。将来はこのようなリサイクルウンチ葉書きが普通に販売されていると思います。

育て! ドングリ

四年生の時、学校でドングリを竹のポットに植えました。天王山は常緑樹が多いので、落葉樹のドングリを植えようという活動が始まりました。今では30cmくらいの苗もあります。右下写真参照。この苗は学校で育てて、卒業する時に天王山に移植する予定になっています。

私が植えた苗が大きく育ち、子供や孫にとって住みやすい町になる事を願っています。



大山崎町が住みやすい町になりますように。



エコ記者ふたば 取材日記

～取材をふり返って思うこと～

ボランティアの人は売り上げ金で新しいのこきりを買おうと言っていた。このようにエコ活動はイベントではなく地道に続けるものだということを改めて感じた。私は今まで家庭でできるエコを実践していた。今回の取材で、一人一人がやる事も大事だけど、地域力、すなわち地域の人々が支える力がとても大きいことがわかった。暗いニュースがタタき毎日だから、明るい未来を私たちがつくりたい。



ドングリの苗